

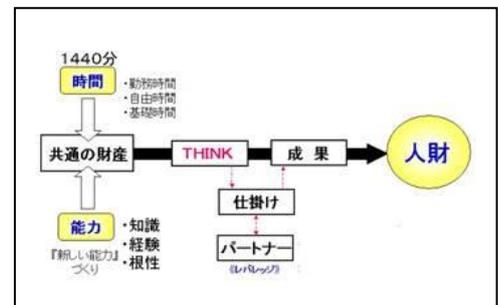
今さら聞けない#86・・・「ベースは共育」

1. 「鬼に金棒」

右掲は、「鬼に金棒」で取得した無料のイラストです。名古屋から送って頂いた機関誌に『「教育」と「共育」』と題した記事を社長様を書いておられます。その中に『「教育」とは金棒を大きくすること「共育」とは鬼を大きくすること』というネットヨタ南国の横田相談役から教わった話と紹介されています。鬼もそうですが、新入社員も当初はひ弱な存在なので、新入社員教育から入り会社のDNAを学び、社会人教育や商品などの教育を受け、現場に配属されて実際にお客様と対峙して経験を積んで育てて行きます。つまり、鬼は最初から大きな金棒を振り回す体力がなく、成長に合わせて金棒が大きくなって行くというのです。



つまり、「鬼」＝「共育」、「金棒」＝「教育」と置き換えて、まず「鬼」を大きくし、次に「金棒」を大きくするという順番があり、それを繰り返すことで正しく成長するとおっしゃっています。例えば、「力不足」という言葉がありますが、「与えられた役割や期待に対して、自分の能力や実力が十分でないことを意味する表現」なので、常に、自分の力不足を弁えて、未知や未体験なことに対して積極的になることが重要です。右掲は京セラの稲森さんの著書から図式化したものですが、「THINK」（考え方）が大きな要素であり、これがマイナスであれば後工程が機能せず成果が出なくなります。つまり、「鬼」＝「共育」なので、会社や上司を含めてお互いに「共に育つ」という環境が必要であり、会社や上司が積極的であることがベースに必要なのです。



それをさて置いて「不足」や「不満」ばかりを言って「できない理由」とする傾向があります。ジョンFケネディ大統領の有名な演説のように、「してくれる事を望むのではなく、自分が為すことを望む」という風土づくりが必要であり、改善では「品質づくりは人づくり」と言っており現場の積極的な参加とコミュニケーションが重要であると教えています。

2. 「共育」

中小企業家同友会(同友会)の中でも「共育」という言葉が使われていますが、うまく機能していないケースが多いのです。同友会の理念に「3つの目的」を掲げていますが、第1課題が「よい会社を目指そう」であり、その具体策として「自主的近代化と強靱な財務体質づくり」を掲げています。つまり、「自主的近代化」を図る必要があるのです。製造業の場合、機械装置が大きな近代化ですが、それに辿り着く為に改善活動がベースとなります。つまり、「改善」＝「人づくり」と言われるように現場のマインドづくりが無ければ、高額な最新機械設備を導入しても十分に機能しないのです。つまり、「よい会社」を目指すには平素の「人づくり」が最大課題になります。

例えば、非製造業の場合、「自主的近代化」と言えば、最近ではDX化が叫ばれますが、システム化で近代化するのが先かシステムに対応できる人材づくりを先にするのかという課題があります。会社はシステム化で近代化を図りたいですが、それには現場の管理者を巻き込む必要があるのです。ノーコードで可能なソフトが出て来ていますが、複雑な処理や外部データとの連携などにはオプションを追加する必要があります。このオプションが必要なレベルでは、担当者だけでは解決できない複雑性(例外事項)が潜んでいるケースが多いので、単に「共育」と言っても現実には深い部分が潜んでいるのです。

中小企業家同友会「3つの目的」

1. よい会社を目指そう
2. よい経営者になろう
3. よい経営環境を目指そう

3. 文書による「共育」(DNAbook)

第1項でご紹介したお客様の社内報にDNAbookというキーワードが使われていましたがHPでは公開されていませんでしたので、ネット検索で[太陽開発\(株\)のHP](#)にDNAbookが公開されていたので参考にして頂きたいと思います。中小企業では十分な新入社員教育が出来ないのでDNAbookを作成しておけば、社歴や理念などを含めて共通認識できます。HPでも同じではないかという意見もあると思いますが、自社で追加編集するという点では自由度が高くなります。

太陽開発のDNAbookには「7つのテーマから導き出される太陽開発のDNAとは。」と題して『「せっかち」で「こだわり」が強く「まじめ」。「思い立ったら即行動」し、常に「前向き」。地域と「つながる」ことに熱い思いを持ちながら、ひたむきに仕事へ取り組む集団、それが私たち太陽開発。これまで積み重ねてきたこと、そして、これからも大切にしていきたいこと、すべてが【DNA】に深く刻みこまれています』と書かれてあり、共有化されて「誇り」を醸成しています。

つまり、会社として「誇り」を語りかけていることがポイントです。この誇りを実践する行動指針として「せっかち」で「こだわり」が強く「まじめ」や「思い立ったら即行動」し、常に「前向き」、地域と「つながる」ことに熱い思いを持ちながら、ひたむきに仕事へ取り組む集団、それが私たち太陽開発と分かりやすく示されています。これを現場のリーダーたちが実践して現場の人づくりを行なっているので文書による「共育」が行われているように思います。

4. ベースは「共育」

「教育」と「共育」というテーマがありますが、どちらが先かという課題があります。第1項で「鬼」＝「共育」、「金棒」＝「教育」と置き換えて、まず「鬼」を大きくし、次に「金棒」を大きくするという順番があり、それを繰り返すことで正しく成長すると件をご紹介したように、「人」が先なので「共育」が優先するのです。私は、船井総研客員経営コンサルタント養成学校で学んだ時に、講師の宮内先生から「教えるだけではインストラクター、できなければ介入して出来るようにするのがコンサルタント」と教わりました。当時はサラリーマンでしたが独立を想定して社名を考えていましたが、宮内先生から教わった「心観学術体」という5段階に即してエー・エム・アイ;AMI(仲間);Advanced Management with Information(情報で先進的経営)と意味づけて、自分でも「やって見せ」が出来る分野を検討したのです。

心:AMI(仲間)
観:情報で先進的経営
学:Faxマーケティング
術:Faxちらし
体:ちらし制作

私の場合、当時('95年)、中小企業なら100%普及しているFaxに着目して、大手コンサル会社が手を出さないニッチな分野を切り拓いたのです。最初のお客様で運よく初年度16億円から20億円への躍進につながって「自信」を深めたのです。例えば、「体」の部分でデザインという課題が浮かび、デザイナーを雇い「写真」からイラスト化する技術を得たのです。そして、成功体験から「後工程引き」と名付けて製造卸のマーケティング・スタイルを確立して、さらに、「3段活用マーケティング」として「ちらし」を軸にしたOJTで商品情報を共有化して、レスポンスがない客でも10%は潜在客がいると統計的に示して「後追い」を指導したのです。その後、AMI(仲間)という信念で、例えば、業務改善のシステムを構築したり、HPを制作するようになって「今日」に至っています。

「自主的近代化」というキーワードは非常に重要です。製造業の場合、機械化である程度達成できますが、非製造業では難しい課題になります。弊社の場合、必要に応じてシステム開発やHP制作というキーワードで社員を育成して来ましたが、一般の非製造業では現業に流され易いので必要性があっても現場では現実が優先してチャレンジしない傾向があり、「やらなくても変わらない」が蔓延してマンネリ化するのはです。こうした状態になった時は「教育」では無理で、「共育」という原点に戻って現場の方々と「一緒に」というスタイルがポイントになります。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】